

緑のまきば

2003 No.36

小金井緑町教会
 小金井市緑町四一六三三
 電話〇四二二八一七九六一
 編集・牧師 山畑 謙

説教

『神秘』

山畑 謙

「イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。」

(ルカ二四・一五)

宗教につきものの「神秘」という世界、それはしばしば人為的な、人の手によって作り上げられたものに付けられた名称でした。断食や修行という名目で肉体的な極限状態に至らせ、心理学で言うトランス状態（恍惚状態）の中において、そこで体験する幻視や幻聴を特別な神秘体験として神と交流したという事が言われるようになるのです。現代ではカルト集団がそのテクニクを応用して、多くの人を強力なコントロール下に置いていきます。

聖書の中に「秘密」「秘められた計画」と言われている事があります。古い聖書では「奥義」と訳されたもので、原語のギリ

シャ語で（ミユステーリオン）と言います。ミステリーの語源となっている言葉であり、「神秘」と言ってもいい言葉ですが、それは啓示によって知るものとなると言われています（エフェソ三・三）。「啓示」とは、覆いを取り除かれて、それまで見えなかったものが見えるようにされることを意味します。聖霊が御言葉において働き、それまで見えなかったものが見えるようににされるのです。

聖書の証しする神秘、それは復活のキリストです。コロサイ書一・二六、二七に次のように言われています。「世の初めから代々にわたって隠されてた、秘められた計画が、今や、神の

聖なる者たちに明らかにされたのです。この秘められた計画が異邦人にとってどれほど栄光に満ちたものであるかを、神は彼らに知らせようとされました。その計画とは、あなたがたの内におられるキリスト、栄光の希望です。」啓示によって、イエス・キリストが過去の方ではなく、あのだだ一回の十字架によって現在に至るすべての罪を赦す現在の方として見出す目を開かれるのです。イエス・キリストが私たちの人生の道の同伴者として、全き赦しをもって傍らを共に歩んで下さっている事に、目を開かれるのです。

それは最初に記した人為的な神秘体験によるのでは断じてありません。聖書が示すミステリーは私たち一人一人が困難な現実の問題を抱えながら、神の御前である礼拝の場に招かれ進み出て、聖霊の働きを心から願って求めつつ、折り、御言葉を頂く時に起こります。啓示という出来事が起こるのです。そしてそれは奥義・神秘であるキリストを知る事になるのです。この神秘に触れる時、人智を超えた力が発揮されます。「四方から苦しめられても行き詰まらず、途

方に暮れても失望せず、虐げられても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされない」（二コリント四・八、九）という事が私たちにも実現するのです。

聖書で「知る」という時、そこには（人格的応答関係）が伴います。ただそこにいるという存在を認めることではなく、そこにある方が呼びかけ、それに答える、「やりとり」「応答」があるのです。私たちはキリストについてどういう知り方をしていくのか、いつも新しく問い直し、吟味しなくてはなりません。

人格的応答関係が欠落したまままで知っている（信じている）と自負していたとしても、それは何の力にもならず、救いにもならないからです。私たちの信仰生活は、復活されたキリストとの交わりの中に生きていくことであります。それは神を愛する礼拝と隣人を愛する奉仕の業の中で実現していくものです。私たちはそのようにして、唯一にして像を持たず目に見えない創造主たる神を知るのです。ホセア書六・三に「我々は主を知ろう。主を知ること追い求めよう。主は曙の光のように必ず現れ、降り注ぐ雨のように、大

地を潤す春雨のように、我々を訪れて下さる」と言われています。古の預言の言葉が私たちの上に実現します。

きつと、あなたも傍らを歩きたもう主を見出す恵みにあずかるでしょう。その時、一緒に喜び、歌おうではありませんか。